

20191105 紅葉の楽しみ

1. はじめに

紅葉は木々が冬支度を始める前の段階ですが、10月中旬から紅葉の季節が始まり、気象庁より「紅葉前線」が発表されます。今年は台風や天候不順にも影響されて、全国的に気温が11月にかけて平年より高く、朝晩の冷え込みが強まる時期も遅いと予想され、全国的に平年並みかやや遅い見頃になるだろうと予想されています。内陸部や山沿いで朝晩は冷え込む日が増えてくるので、色づきが次第に進んでいくでしょう。標高の高い地域では平年並み、関西の平野部では、大阪、京都ともに12月上旬が、奈良では11月下旬が予想見頃時期と発表されています。紅葉の期間は、気温が低いほど短くなるので、札幌で11日、秋田で15日、名古屋で18日、福岡で21日というデータがあるそうです。関西は名古屋並みなのでしょう。

もちろん平地の紅葉と山岳地帯のそれとは様相が異なり、標高の高いところから低いところへと移っていきます。

春に満開の桜を待ち焦がれる気分と同様ですが、紅葉の色づきには年よっての差も大きく、同じ場所でもタイミングを逸したり、色合いにがっかりしたり、なかなか紅葉の美しさに満足できないことが多いものです。今年の紅葉狩りはどこにしようか思案中です。2013年に出向いた鶏足寺の紅葉が印象深いです。

2. モミジとカエデについて

最近私たちがなじんできたカエデ科という分類がなくなり、ムクロジ科となったことはご存じでしょう。私には素人ながら分類変更にも不満が残りますが・・・。葉の切れ込みが深いカエデが「〇〇モミジ」切れ込みが浅いカエデを「△△カエデ」と呼ぶようです。

モミジという木はありませんが、代表的なイロハモミジがそう呼ばれるのは、紅葉シーズンの主役であり、日本の秋を真っ赤に染める代表樹木だからです。庭木や公園にも多く植えられています。本来の自生は低山の日当たりのよい谷沿いです。

5~7つに裂ける裂片を「いろはにほへと」と数えたことが名前の由来。秋だけでなく新緑のもとでもきれいで、葉が伸びると同時に、真っ赤な花が咲き、受粉後には2個1組の竹とんぼ状の果実がつきます。初めには薄紅色だった果実は、秋には熟して茶色になり翼果がひらひらと回転しながら落下する光景をご存じでしょう。



長浜市鶏足寺の紅葉(2013年)



イロハモミジ (ムクロジ科)

3. 紅葉のメカニズム

紅葉は樹木が冬の間休眠して、激しい寒さや乾燥に耐えるための適応現象といえることができます。葉の部分は特に乾燥や寒さに弱いので、落葉樹は休眠に入る前に、葉をすべて落してしまいます。紅葉はこの葉っぱを落とす前の準備です。葉っぱの役割を停止していく過程で、葉の色は緑から黄色へ、さらに赤へと変化し、その後で、枯れて落葉してしまいます。

紅葉は、樹木の種類によって、黄色くなるものと、赤くなるものがありますが、まず緑から黄色に変わってから赤になります。種類によって黄色のまま落葉するものもありますが、いずれにしても、紅葉はまず黄変するのが第一段階といえます。

葉っぱの主要役割である「光合成」を停止することで、光合成をつかさどるクロロフィル (葉緑素) が減っていきます。もともと葉には黄色いカロチノイドも含まれていて、クロロフィルをサポートする役割をしています。冬支度をすると、葉での光合成活動を低下させるので、クロロフィルが分解され

葉の緑色がなくなり、残ったカロチノイドの黄色が目立つようになります。これが黄葉です。イチョウやポプラのように、クロロフィルが壊されて黄色なるだけで、アントシアニンが作られない植物もあります。

一方、葉が光合成を停止し、その機能を終える段階で、葉の中にはアントシアニンが急増して、それが黄色のカロチノイドを上回り、赤く見えるようになります。

また落葉樹では、葉っぱを落とす準備として、「離層」という物質が葉の根元と枝の間にできて、これに邪魔されて葉っぱの中にある糖分が、幹に流れず、たまっていく状態になります。その糖分が紫外線を浴びると分解されて、それまで存在しなかった新たな色素のアントシアニンが作られます。葉が赤くなってきたということは、離層ができていていることを示しています。

アントシアニンはカロチノイドと違って、葉が緑色の時はまだ存在していないということも頭に入れておきましょう。

4. 紅葉の良しあしを決める3つの条件

同じ場所でも毎年色の具合が違います。以前出向いて楽しんだ「みたらい溪谷」の美しさもいつも保障されているわけではありません。それだけにピタッと当てるのは難しいものです。

さて、紅葉をきれいにする要因には次の3つの条件が知られています。

その1：日中の天気がいいこと。

赤い色素となる糖分は、光合成によってつくられるから。

その2：適度な雨や水分があること。

乾燥しすぎると、葉が紅葉する前に枯れてしまいます。適度に雨や水分があることが紅葉には好条件となります。紅葉の名所が、溪谷や川沿いに多いのは、この条件が揃っているからといえます。

その3：夜と昼の寒暖の差があること。

夜の気温が高いと、昼間に作った糖分を使って活動してしまうので、鮮やかな赤になりません。

夜と昼の寒暖の差があるほうが、糖分の使用が少なくてきれいな紅葉になります。

一般的には、紅葉は最低気温が8℃以下になると始まるといわれています。朝の最低気温が5℃以下の日が続くと、最も美しい紅葉が見られるといわれているので、冒頭に触れた今年の鮮やかさは、この条件に大きく作用されることになるはずですよ。

5. 出かけてみたい紅葉の名所ベスト10（関西のお出かけ情報サイトから）

- | | | |
|------------|--------------|-------------------------------|
| ①高源寺 | 兵庫県丹波市青垣町 | 11月上旬～中旬 |
| ②星田園地 | 大阪府交野市星田 | 11月上旬～12月上旬 |
| ③毘沙門堂門跡 | 京都市山科区安朱稲荷山町 | 11月中旬～12月上旬 |
| ④瑞巖山圓光寺 | 京都市左京区一乗寺小谷町 | 11月中旬～12月上旬 |
| ⑤永観堂禅林寺 | 京都市左京区永観堂町 | 11月中旬～12月上旬 |
| ⑥勝尾寺 | 箕面市勝尾寺 | 11月中旬～12月上旬 |
| ⑦鶏足寺 | 滋賀県長浜市木之本町 | 11月中旬～下旬 |
| ⑧叡山電鉄 | 京都市左京区田中上柳町 | 11月中旬～下旬 |
| ⑨嵯峨野トロッコ列車 | 京都市右京区嵯峨 | 11月中旬～12月上旬 |
| ⑩但馬安国禅寺 | 兵庫県豊岡市但東町相田 | 11月中旬～下旬（ ドウダンツツジ で有名） |

以上